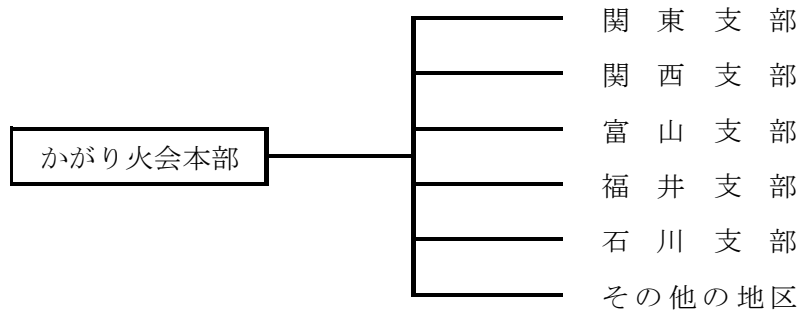


## (26) 同窓会「かがり火会」

同窓会「かがり火会」は昭和 24 年 3 月に発足したが、その名称は「愛と理性のかがり火を高く掲げ、つねに先頭に立って進んでもらいたい」との創設者故赤井米吉先生の精神に由来する。70 年を経た現在、会員は国内外を含め 2 万 6 千名を超えており、全国各地域の文化活動を躍進させるリーダーとして活躍している。

本会の会員は正会員と準会員で構成され、金沢学院短期大学生は入学時に準会員となり卒業と同時に正会員となる。かがり火会設置の精神に基づき母校の繁栄を願い、大学内外においてさまざまな活動を行う。

### かがり火会の構成



### かがり火会名称の由来

金沢に初めての女子高等教育機関として、本学の前身、金沢女子専門学園が創立されたとき（1946 年）、それを記念して学友会誌「かがり火」が発刊されました。その表紙にはかがり火の炎を模した中に、ギリシャ語で「EROS KAI LOGOS」（「愛と理性」）の文字が記されています。

かがり火とは祭礼などの時にたく火のことです。本学の創立者故赤井米吉先生は、「かがり火」創刊号の巻頭に「上代女性の第一の務めは火種を絶やさないことであった」と述べ、「火は光と熱との源である。光は知性をあらわし、熱は情熱をあらわす。火種を守る女性は愛と理性の守護者である。哺育者である」と、学園創立の理念を明らかにされています。

ギリシャの神殿でたかれたかがり火を世界の人々が受け継いで、世界の祭典、オリンピックが開催されています。本学の建学の精神「愛と理性」のかがり火が、次から次へと受け継がれることを願って、1949 年（昭和 24 年）に設立された同窓会は「かがり火会」と命名されました。